

休日・夜間議会の取り組みに関する 議員検証アンケート取りまとめ結果

(実施期間 1 年 : H29.12 月から H30.9 月)

平成 3 0 年 1 0 月 1 日

喬 木 村 議 会

喬木村議会議員(出身地区別)

平成29年6月25日現在

顔写真	議席No.	氏名	出身地区	顔写真	議席No.	氏名	出身地区
	12	下岡 幸文 議長	阿島南		10	昼神 二三男 監査委員	阿島北
	11	小池 豊 副議長	富田		1	佐藤 文彦 予算決算 常任副委員長	阿島南
	8	後藤 章人 議会運営委員長	阿島町		3	福澤 真理子 社会文教 常任委員	富田
	2	下平 貢 総務産業建設 常任委員長	小川 両平		4	櫻井 登 社会文教 常任委員	伊久間
	7	中森 高茂 社会文教 常任委員長	阿島北		5	後藤 澄壽 総務産業建設 常任委員	小川 上平
	9	木下 温司 予算決算 常任委員長	富田		6	束原 靖雄 総務産業建設 常任副委員長	氏乗

休日・夜間議会検証アンケート集約結果

1. 平成 29 年 12 月定例会から休日・夜間議会運営を 1 年間試行してきました。会期を固定し更に夜間会議という制約の中で、①効率的②片手間ではなく討論中心の慎重審議。③兼業の議員が活動できる議会を目指して改善を重ね様々な改善を行ってきました。この取り組みを検証するにあたりいくつかの質問に対する各議員の意見を掲載します。

1. 休日・夜間の議会運営について賛否とその理由を記述下さい。

【休日・夜間の議会運営に賛成】

【下岡幸文議長】

限られた会期の中で、兼業議員を含む全議員が議案調査のために十分な時間を確保し、会議で慎重な審議を行うためには、休日・夜間議会を含めた柔軟な議会運営が必要と考える。

【小池豊副議長】

特に問題なく行われているので、賛成です。

【下平貢議員】

兼業議員の立場からすると、夜間に委員会がシフトされることにより日中の仕事に対する計画が立てやすくなった。個人的には休日も、平日も日中の会議については、影響に差はなかった。1回の定例会中、夜間が1～3日において、これほどまでにインパクトを与えたことにむしろ驚いている。議会活動は、この休日・夜間によって改革が終始するものではないと感じる。将来、多様な人材が議会に関心を持ち、議会活動に参加してもらえる機会が増えるとするならば、大きな改革であったと捉えている。

【東原靖雄議員】

農業のためか天気仕事で平日、休日関係なく休日議会に抵抗ない。仕事を早めに切り上げ、夜間に出席出来る午後 9 時終了で遅くなく帰宅できるので良い。

【後藤章人議員】

昼間仕事を持っている者にとって有難い方法であり、事実仕事はあまり休むことが無く助かった。しかし、夜間という限られた時間しかも 2

時間以内を目標とする為事前の準備の必要性が大きく、それを報告書、資料として提出するのは負担を感じた。議会、議員活動、職業の両立は今まで以上に体力的には苦しい面が多かった。休日の議会は、職種によっては困難に思えることもあると思う。また、休日の傍聴は決して多様な年代、立場、職業そして一般の方々の出席を多く期待できるものではないと感じた。とは言え、会議を夜間開催に変えることはかなり大きなプラスの意味を持つものと思う。定例会の開会、閉会も夜間でよいのではないか。

【佐藤文彦議員】

休日や夜間の会議に負担を感じない。夜間は2時間という限られた時間であるため、質疑に集中でき、尚且つその為の事前準備の内容が充実してきた。平日昼間の議場への束縛がない分、仕事への影響は軽くなった。

【中森高茂議員】

夜間の委員会は限られた時間内で効率的に議論が出来る。委員長・副委員長で進行内容や趣旨を明確にして委員に伝える事で、さらに踏み込んだ討論が短時間で行う事が出来る。兼業議員としては他の2つの仕事をこなすためには必要である。勤務日数が定例会月でも15日以上が可能となった。

【福澤真理子議員】

できないということはない。しかし、就業しながら、議員活動、家庭の事を行うことは大変であった。

【木下温司議員】

多様な働き方、若い人材が少しでも議会へ参加できる環境を作る上では、一つの手段として必要と感じる。

【櫻井登議員】

消極的見解（△）であるが「私個人のケースとして兼業可能を判断すれば、1年間の実績では、賛成でき得る」との解釈もある。「やり繰りしてできたという結果論」に他ならないが。

【昼神二三男議員】

現在の議員報酬だけで生計を立てていくことは困難であり、昼間を利用して収入を得る機会が増える。

【休日・夜間の議会運営に条件付き賛成】

【後藤澄壽議員】

「個人の状況調査」を実施した上での実施であった点は賛成できるが、事前に村民に説明し理解を得た上での実施でなかった点は、賛成できかねぬ点である。

【休日・夜間の議会運営に反対】

【福澤眞理子議員】

基本的には議員に専念でき、昼間の会議がよい。休日の一般質問も傍聴しやすくなったという方もあると思うが、働き方は様々であり、休日だけが良いとは限らないと思う。ただ、夜間だから片手間とか、慎重審議ができないというのは当たらない。

【櫻井登議員】

積極的見解（○）では「反対」。基本的には「議員専従」。議員活動とはそういうものだと考える。住民は無関心でなく「低関心」であり、その程度は、職業感が伴わないための理由が主体となっていると考えられる。時間をかけてでも、パラダイムシフトしないと、この問題の根本的な解決は困難極まりない。マクロで俯瞰する問題である。従って、目先の問題対処から判断すると、一見「賛成」はありがちと思うが、先の長い問題として考える必要があるから、私は「反対」である。

2. 休日夜間議会は、多様な年代・立場の住民の傍聴機会が確保されることを理由に議会モニターから評価の声が寄せられています。今後休日夜間議会继续するか否か大きな判断材料になります。休日夜間議会の継続について1つ選びその理由を記述下さい。

【休日夜間議会继续する】

【下岡幸文議長】

議会モニターを始め、住民や各団体など多くの方が、審議の過程が良く理解できる夜間の常任委員会、議員の村政に対する考え方がわかる休日の一般質問を傍聴してくれている。村政と議会のあり方や役割を理解いただく良い機会となっており、継続を望む。

【小池豊副議長】

休日議会は、日曜日は公民館行事、地区行事等も多いので、土曜日開催が望ましい。

【下平貢議員】

議会に関心を持ってもらい、傍聴者が増えたことに一定の評価をした
い。今回の改革は、議会への関心を高めてもらい、多様な意見を寄せて
いただく良いきっかけとなったと考える。今後も、住民の理解を深め、
更には住民参加が促せられるような仕組みづくりに努力する必要がある
と思う。

【東原靖雄議員】

夜間 2 時間で審議が出来るのかと指摘があるが、事前に資料の配布に
より議案が把握でき、検討して常任委員会に望むため時間内に真剣に取り
み 1 分の無駄が無く組める。議会改革の 1 つある、休日夜間議会を取り
入れた運営で良い。休日夜間議事を長く継続して、その成果を固定した
い。

【後藤章人議員】

会議を夜間開催に変えることはかなり大きなプラスの意味を持つもの
と思う。定例会の開会、閉会も夜間でよいのではないか。

【佐藤文彦議員】

継続しない理由が見当たらない。今後も休日夜間議事を基本としたス
タイルで、その都度、議員のやり易い柔軟な対応と改善を行っていけば
良いと思う。思ったほど傍聴者の数は増えなかったが、モニターの方々
から評価されている事も含め、報道等により明らかに議会への関心は高
まったと感じますし、休日夜間の時間帯により、今までの時間帯では傍
聴に来られなかった様々な立場の方の傍聴をする機会を増やす形は作れ
たと思う。形は作れたので、今後は内容を充実していくことを進める為
にも、休日夜間は継続する必要がある。

【中森高茂議員】

傍聴者にも分かりやすい委員会審議内容も取り入れながら、さらに傍
聴者を増やせるような委員会として継続したい。

【木下温司議員】

1 年間 4 定例会を終えた中で、それぞれの定例会の状況に応じ、審議
ができ、夜間の委員会審議も特に問題ないと感じる。

【昼神二三男議員】

「郷に入っては郷に従う」 特に反対の理由はない。将来については、

もう少し継続した(任期中)結果により判断

【休日夜間議会を継続するか否かを「村民アンケート」によって判断】

【後藤澄壽議員】

地域の住民の声を聞くと「パフォーマンスにすぎない」など厳しい意見が多い。継続するか否かは「村民アンケート」を実施し、その結果をみて判断したい。

【休日夜間議会を継続しない】

【福澤眞理子議員】

以前を承知していないが、女性の参画など長期的に考えると平日昼間開催がよいと思う。議会モニターのみならず、広く村民の意見を聴くことが必要ではないかと考える。

【櫻井登議員】

「二者択一」では「継続しない」を選択する。休日夜間議会が「不可能」ではなく、やること自体には支障はないが（物理的には可能であるということ）、「前述の理由」により「先の長い目で見ると必要上、後者を選択する。

3. 喬木村議会の今後の議会運営のあり方について喬木村議会の目指す議会運営方法を1つ選択してください。

○集中専門型の議会運営

【小池豊副議長】

○多数参画型の議会運営

【選択議員なし】

○休日夜間議会運営に改善を加えた現状の議会運営

【下岡幸文議長】 【下平貢議員】 【束原靖雄議員】 【後藤章人議員】

【佐藤文彦議員】 【中森高茂議員】 【木下温司議員】 【昼神二三男議員】

【後藤澄壽議員】 (村民の賛成が条件)

○平日昼間開催する従来の議会運営

【福澤眞理子議員】 【櫻井登議員】

4. 1年間試行する中で休日夜間議会を問わず「議案を受け取ってから調査研究する時間の確保が難しい。調査研究する時間を確保することが必要。」ということから会期の設定等について課題となっていますが、今考える改善案を具体的に記述下さい。

【会期設定等の改善案】

【下岡幸文議長】

議案を受け取り、内容を理解し検討するには、現在の会期では時間の確保が厳しい。柔軟な議会日程を確保するには定例会の会期の延長、通年議会への移行、通任期議会への移行などを検討し実践することと考える。

【下平貢議員】

9月定例会において試行したやり方は、特に決算議会という位置づけから、調査研究にかける時間が確保しやすかったと捉えている。各定例会ごとに提出される議案に対しても、一定の時間があることは今後も大切であると考えている。ただ、調査研究は、定例会中でなくてもできるわけだから、常日頃から資料の収集に努めることと、全員協議会や、閉会中の委員会の位置づけも今後大切になってくると思う。これからも、一歩ずつ検証しながら進めていけば良いと考える。一定のルールのもと、たまには後戻りもあっても良いと思うし、定例会ごとのやり方もありだと考える。

【東原靖雄議員】

前半の一般質問行い、引き続き予算決算常任委員会になるため、一般質問調査、原稿の読み取りと、予算決算の資料の解説に時間が無くもう少し引き離れた日程にしてはどうか。

【後藤章人議員】

今定例会のように、委員会を後半にもってきている現状が良いと思う。提出する書類など本当に必要な物の選択が必要。

【佐藤文彦議員】

会期の延長。若しくは通年会期。タブレットの有効活用（庁舎外への持ち出し可能等）と、SNSを活用した議員間の情報共有。

【福澤真理子議員】

兼業であると、時間の融通を利かせることは難しい。しかしながら時

間が取れる方が良いことは言うまでもないが、どれだけ時間があれば、十分に調査研究できるかはわからない。一般質問を前にもってきて、審議を後にしたことは良かった。

【木下温司議員】

執行部からの議案提出の日程等踏まえると、これ以上の日程繰り上げは難しいと思う。但し、できるだけ時間確保は必要だが、日程の間隔があっても、対応が充実するとは思われない。今後できるだけ早い議案提出をお願いするしか改善策は無い。

【昼神二三男議員】

時間確保のため、議案の(案)の段階で配布する

【改善する必要なし】

【後藤澄壽議員】

調査研究は日常的なことであり、「議案を受け取ってから」するものではない。よって調査研究を理由に「会期の設定」を改善する必要はない。

【櫻井登議員】

この設問では「会期の設定等について課題となっている」の部分については「通年議会」がチラつく。仮に「通年会期（議会）」でも、議案を受け取ってから調査研究の時間では大差はないと思う。時間があるかないかは「専業か、兼業か」によるところの差異が影響するだけで、本来ならば「議員活動に専従の立場で時間を使って調査研究する」ことが大前提であり、長い時間を要するものであって、現状を顧みでの改善案では期待することは難しい。従って、今考える「改善案」は無いに等しい。目先のことではなく、長期的なスタンスで、いかに「村民益」を確保するかがポイントだと考える。

5. 議員の調査研究の時間の確保に加えて、災害時の議員のあり方が全国の地方議会で検討されています。執行機関の「専決予算」を認めず全ての執行をチェックすることや議会活動の平準化を目的に喬木村議会でも「通年議会」を研究することになりました。この議会運営の方法について賛否とその理由を記述下さい。

【通年議会の運営方法に賛成】

【下岡幸文議長】

賛成だが専決を認めず、すべてをチェックする事には疑問がある。通常、閉会中であっても、開会中と同じように議員活動はしている。議員活動の平準化、緊急事態時の議員活動などを考えた時、通年議会を含む会期の検討は必要と考える。

【小池豊副議長】

突発的な出来事の対応、専決報告等なくす為にも通年議会を前向きで、検討することが必要。

【下平貢議員】

これからは、特に災害時の議会の位置づけは、非常に重要なポジションにあることを、議員のみならず、住民の理解が急務と考える。特に、優先すべき予算の執行は、急を要し、将来にわたり重要な判断を瞬時に迫られるという、非常事態となることを認識する必要があると考える。

行政はもとより、議会についても早急な BCP の策定に取り組む必要がある。また、議員の負担軽減のためにも、通常議案に対し、都度審議を重ねていけば、予算、決算審議は別として、負担の分散が効くと考える。こうした意味合いからも通年議会導入にあたっては賛成である。

専決処分については、全てを撤廃することには些か疑問であり、一定のルールを決めれば済むことだと考える。

【束原靖雄議員】

議会の主体性、機動性をもって議長の権限で再開、休会が繰り返し、議会運営の柔軟性、効率性を高め、村民の反映、災害時に緊急対応等により防災、減災につながる。通年会期も年 1 回の開催でなく 2 回の開催を望む。村長の村への方針を多く取り入れられるから等により、賛成し研究を行いたい

【後藤章人議員】

災害時の事などを考えると通年議会の必要性が感じられる。自分の中ではまだ決まっていない。

【佐藤文彦議員】

休日夜間議会に限らず、審議のためには十分な事前の調査や準備が必要。その時間の確保は私にとっても課題である。現在の会期が限られている方式では、兼業議員としては調査が不十分になり兼ねない。特に繁

忙期と重なってしまうと厳しい。議会活動、議員活動の時間の取り方は柔軟であって欲しい。そう考えると、会期に囚われない通年議会の方式は、休日夜間議会を進める上で、更に柔軟な対応も可能になるのではないかと感じる。今後、リニアや三遠南信道の開通に伴い、大規模な契約や緊急な対応が迫られる機会も予想されます。また、昨今の異常気象による大規模な自然災害や、大型工事に伴う人的災害の発生も危惧されます。議会としても様々な案件に対し即時に、調査や審議をして責任をもって対応できる体制を整えておく事が、住民福祉につながるものと考えます。

自治法 179 条の専決処分にある、「特に緊急を要するため議会を招集する時間的余裕がないことが明らかであると認めるとき」と言う場合は、議会としてはその責任を果たすためにも、極力避けるべきだと思います。

以上のことを踏まえ考えると、通年議会の方式が良いのではないかと現状では考えます。

【昼神二三男議員】

休日夜間議会は、兼業議員の負担軽減の目的もあるが「通年議会」により兼業議員の負担が増加することも考えられる。現行の休日夜間議会の運営に、若干手を加えることで続行可能である。

【通年議会の運営方法に賛否判断できない】

【木下温司議員】

どちらの方法にしても、議会の使命は二元代表制の中、行政のチェックと政策提言である。議会運営に関してどちらにもメリット・デメリットがあり、住民の声も聴きながら判断したい。現段階では賛否については、回答を控えたい。但し、議会人 9 月号でも言われているように、多様な民意を議会に反映させていくためには、地方自治法で規定されている、公聴会、参考人制度等を導入するには、現在の会期では時間が足りない。通年議会を導入し、議案審議時間を増やすことも考えられる。しかし、会期日数が増えることが現在の議会改革にマッチするか疑問。

【通年議会の運営方法に反対】

【後藤澄壽議員】

「通年議会」の研究には賛成であるが、実施には、村民の理解を得ることが条件である。したがって、村民の十分な理解を得られぬまま、期限をもうけて方向性を出すこと、ましてや早期に導入することには反対である。「通年議会」について、議長経験者の方々に意見を聞いてみた。

「災害対応には通年議会は必要ない。議長が議員に緊急招集をかけて対

応すればよい。今までもそのように適切に対応してきた」と同じ答えであった。したがって、村民の理解が得られぬまま、急いで「通年議会」を導入する理由はない。

「通年議会」については、役場職員が通年で議会に対応することから「住民サービスへの影響はどうか」、また「議員の地域での活動への影響はどうか」、さらに「議員のなり手不足への影響はどうか」などについて、村民の意見も聞きながら慎重に検討していく必要がある。

【福澤真理子議員】

結論を急ぎ、性急に事を進めることに反対。夜間・休日議会を導入した際、村民からは反対の声も多かったと思うが、一年間やってみて、ということで踏み切った経過がある。総括をした上で、村民の意見を聴くことが残っている。まず、それを行うことが重要かつ必要。なぜことを急ぐのか、理解できない。慎重に検討すべき。

全く「専決」なしということは、議員の負担が増える、職員の負担も増えることになるのではないか。必要があれば、臨時議会という方法もある。

【櫻井登議員】

「通年議会」に関しては現時点では「否」とします。理由は、①休日夜間議会の検証前という時期に「議会運営の方法」を問われても「否」としか言いようがない。②「村民の意向調査」が制度変更の前提として実行されることが肝心だと考える。③前述②は「住民投票」があつて然るべし。④「研究」することは結構だが、熟慮が必要であり、性急に進めることは禍根を残すことになる。⑤「議会活動の平準化」は、換言すれば「議案件数の平準」であり、「議員負担が平準化されることにはならない」と考えることが妥当。⑥「議員の負担」とは、単純に言えば、時間数（日数）が想像以上に増えることであり、現状とは比較にならない。このことは、兼業議員は議員活動ができないことになり、この問題をどう解決するのか。⑦「職員の負担増」も考えられる。⑧「負担増の経費」これも検討しなければならない。⑨「災害時の在り方」は研究の余地あり。この点につき、ここに重点的に焦点を当てることは避けるべきと思う。⑩「専決予算」は金額の幅を設定する工夫は大いにある。

6. 兼業議員の就業環境の現状と課題と対策案があれば記述下さい。

【兼業議員の就業環境の現状と課題】

【下岡幸文議長】

自分自身はほぼ専門的に議員活動をしているが、兼業議員にとっては勤務との兼ね合いから、議会のための時間の確保と日程調整が大きな課題と思う。

【小池豊副議長】

正規職員で雇用されている場合の人の、議員の兼務は無理があると思われる。専念して議会活動のできる集中専門型の研究推進を進めるべきでは。

【下平貢議員】

私の場合の兼業議員という立場から言えば、議会運営に合わせたシフトは容易であった。家族への負担は増えたのは当然であるが、それは家族内の問題であると認識している。

【後藤澄壽議員】

兼業議員といっても、それぞれの就業環境は多様であり、課題もまた多様で一律に論じることはできない。

【佐藤文彦議員】

就業環境の現状は、日中の様々な行事や会議により、仕事の出来ない日はどうしても出来てしまう。その為、工程や折衝において取引先に迷惑をかけてしまう時もある。工程に関わる仕事のため、遅れを取り戻す為の時間（休日作業等）が必要。議会の日程を見ながら仕事を断る場合もあり、以降の仕事が受注できるかの不安がある。売上が落ち、役員報酬もカットした。（すべて、議員になる時に覚悟はしていた）

課題は、やはり、平日昼間の各種行事への対応が課題。議員という立場で、議会活動は最優先と考えているが、特に繁忙期や月末などに重なる場合は苦慮する。行事、会議への対応だけでなく、調査・研究、様々な提出物の作成など、繁忙期には時間的に余裕がなく、議員としての仕事に優先順位を付けざるを得ない。その為、一般質問の題材はあっても、調査研究不足で質問にまで作り上げる事ができず、その定例会では断念することもある。視察の対応や各種行事への参加（来賓）については、その出席は自由としていただき有難い反面、議員としての責任を果たせられているのか？ 自分だけ甘えているのではないか？ 周りの評価

(あの議員は来ているが、あの議員は来っていない等) はどうなのか? の葛藤が毎回有る。

【後藤章人議員】

私の場合、就業時間が不規則で一週間を通じて忙しいのは週末と普通の方とは仕事の形態が全く違うので一方的な考えになってしまうのかもしれない。

【中森高茂議員】

運動会・議会視察等議員派遣から外して頂き出勤日数が増えた。会社、自営業、議会、また委員長としての会議その他地域の行事や役員としての会議、夜間ソフト、リニア対応等に追われ書類提出日に迫られる事が多く中途半端になる事が多くが課題である。

【福澤真理子議員】

議会優先で、仕事をやりくりしてやってきた。職場の理解は得られて快く送り出してもらったが、仕事の内容から、不在時に対応を必要とされることも多く、他のメンバーが対応してくれ、負担をかけてきたと思う。

【櫻井登議員】

「両立＝やり繰り」。議会優先であり、仕事への犠牲は、被雇用者は「辛い立場であり、また、同僚職員にも同じ思いをさせる」。兼業と言っても「自営業」は別格でその比ではない。

【兼業議員の就業環境の対策案】

【下岡幸文議長】

閉会中の常任委員会による調査・研究や議員全協など職員の出席を必要としない会議は、休日か夜間の開催を基本に考えてもいいのではないか。

【下平貢議員】

まだまだ、自己研鑽の域を超えていない。時間の使い方を如何にスリムに、効率よくしていくかが課題と考える。月初めの全員協議会＋委員会のやり方は、計画も立てやすく良策であったと考える。今後も、会議に対し、いかに要点をまとめて発言できるか、事前の準備が大切だと考える。また、議員間討議を深めていくためにも、情報の共有を図っていくことが大切だと考える。そのためにも、議会のICT化を更に進めて

いくことが重要と感じる。

【後藤澄壽議員】

個々の議員の事情を調査し、できるかぎり大方の議員の賛成が得られる対応策を考える。

【佐藤文彦議員】

議会の仕事の手を抜くこと。（冗談ではなく、兼業議員としてそう考えてしまう場面が幾度もありました。）今後、若い世代の参画を考えたとき、特に昼間の行事への対応については、その内容に応じて議員の役割や責任を再度検証し、住民にも分かるように明確にするべきだと考えます。

1年経ち、議会の仕事がおおよそ把握でき、調査や研究も、その内容や目的が明確となり、今まで闇雲に行っていた部分が大分整理され効率的にできるようになってきた。兼業議員の現状を受け入れることで、対策は可能だと考えます。予算決算委員会での議事録作成は答弁などに間違いが有ってはいけないと、録音から文字起こしをしているが、特に予算・決算月はボリュームもあり毎回長時間を要する。対策を提案したい。

【中森高茂議員】

自分のスキルを上げる以外ない

【福澤真理子議員】

雇用や就業の形態は様々で、置かれた立場や状況のなかで、両立できるようにやるしかない。職場の理解が得られるかが問題。

【櫻井登議員】

「雇用形態や就業形態は種々様々」。一概に差異を論じても該当することも少なく、比べても意味がない。「自己犠牲」を覚悟に兼業議員を自認し、いかに両立するか。「創意工夫と本人の努力次第」しかない。

7. 休日・夜間議会の議会運営について、兼業議員・兼業でない議員それぞれ家族・雇用主・後援者・最後にご自身のご意見（賛成・反対・改善案等）を記述下さい。

【兼業議員（家族）の意見】

【下平貢議員】

1 期目ということもあり、比較対象がないため、現行のやり方が良いのか、悪いのかの判断がつかない。

【後藤章人議員】

土日の昼間は、職業柄家族の負担がかなり大きい。

【佐藤文彦議員】

休日夜間と言われているが、平日昼間の会議や来賓で呼ばれる事の方が多いのでは？会議に出る時間よりも、その為の準備や提出書類を作る時間に苦勞しているようで、日中の仕事から帰り夜中遅くまでやっている事があり、健康面での不安を感じる。

【中森高茂議員】

議員報酬では老後の補償もなく、安定した所得確保のため現在の休日夜間で取り組んでもらいたい。地域に貢献する事は大事だと思うが、先ず家族の生活の安定を担保した後に議員になるべきである。現在の報酬で議員活動を増やすことはなり手不足の解消にはつながらない。理想と現実の違い。すべてが中途半端になる恐れがある。

【福澤真理子議員】

休日議会については、本職から解放され身体を休める時間であるにも関わらず、健康面で心配である。女性議員の家族は、議員に負担をかけさせたくないという思いでやっている。

【櫻井登議員】

両立は、任されている。特別、心配もない。

【兼業議員（雇用主）の意見】

【中森高茂議員】

議員を辞めた後に期待をして雇用している。従業員には立場は伝えてある。

【福澤眞理子議員】

仕事・議員・主婦・孫育て等一人で何役もこなされて男性の議員さんにはない大変さを感じていた。仕事は休んでいる間、電話対応はできたが、全ての責任は本人にかかってしまうので大変だったと思う。夜間・休日議会は休みが無く仕事が続くことになると思う。休日以外に、休みを取って働くことができれば良いと思うが、良いとは思えない。

【櫻井登議員】

企業ではなく（団体）「非常勤賃金職員」の立場ではあるが、任務には就業上の影響はない。また、同僚の「非常勤職員」との連携によりカバーできている。特に問題なし。

【兼業議員（後援者）の意見】

【下平貢議員】

休日や夜間に行うことに意見はない。議員の皆さんの負担増にならないければ良い。そのことよりも、いかに議会活動を住民に理解してもらうかが大切。傍聴者が増え、議会に関心が高まることに期待する。住民の立場からすれば細かい数字のチェックも大切だが、むしろ事業精査の方がわかりやすい。

【佐藤文彦議員】

関心、話題性は大きかった。時間的に傍聴する機会ができたことは良かった。議員のなり手不足解消には難しいでしょうが、兼業議員の負担が少しでも解消されれば良いと思う。1年経験した職員の反応も聞きたい。

【福澤眞理子議員】

反対。女性の立場から考えると子育て世代、現役、介護世代、どれをとってみても、家庭への責任も重く、負担を生じる。特に子育て世代においては、夜間や休日は子どもとの大切な時間である。就業議員であれば、雇用主のいる仕事の場合二重の負担になる。家庭もあり、多大な負担がかかると思われる。昨今の働き方では、パートナーが単身赴任になるということも考えられる。社会的な背景も考える必要がある。

【櫻井登議員】

承知のことであり、無理なく両立を。

【兼業議員（本人）の意見】

【下平貢議員】

先述の通り賛成である。休日・夜間議会は、単に改革の一策に過ぎない。これをきっかけに、更なる議員力・議会力アップに繋げていく必要があると考える。

【後藤章人議員】

平日は、夜間議会が良いと思うが、休日の議会は家族への負担が大きく、健康面など心配な面が多々ある。

【佐藤文彦議員】

特に不安も感じず、ただ昼間の会議を休日や夜間に行っているという感覚で取り組んできた。休日夜間議会に対しては全く負担もなかった。

昼間の議会が減った事で、仕事の時間もその分は確保できた。議員として、各種研修会への参加や、視察対応において他団体からも勉強したい。各種行事に参加して議員としての立場で責任を果たし交流も深めたい。しかし、それらが平日昼間に多く、議会優先と考えてはいるが、全てに対応できていない事への葛藤がある。私自身は、会社の立場的に議会への対応に必要な時間の融通はききますが、それでも繁忙期には苦慮する。調査、研究や提出書類の作成など、実際に睡眠時間が2～3時間という日が何日か続く時もあった。これは、休日夜間議会が原因ではなく、兼業議員という立場から仕方がないことなのかも知れない。

なり手不足の問題（特に若い世代）は、休日夜間議会の取組みだけでは解決しない。まずは兼業議員の役割を明確にし、それに併せた議会のあり方を住民に示す必要があると感じる。正直、議会がこれほどまで忙しく、仕事も多いということは理解できていなかった。しかし、これが本来の議会の姿であるならば、休日夜間議会の取組みなど、まだまだ改革の一步目であり、騒ぐことでも、騒がれることでもなかったと感じる。そんな改革の時期に携われることに遣り甲斐を感じる。今は大変な事も多いが、次代の議会の形を作りあげることが肝心であると思う。

議会改革を進める地方議会は多く、目標とすべき議会もある。しかし、その多くは専業でやられている市議会。専業でやられている議会と同じことをしようと思えば、当然仕事や時間的な部分への影響も増えるが、住民が議会に求めている事に市議会と村議会での違いはない。住民の付託に応じていくためには、更なる効率化や柔軟性が必要。

【中森高茂議員】

様々な職種の方や女性や若者が参画できる議会の模索を考えて議会に臨んでいる。自分の体験や現状を伝える中でなり手不足を解消したいがハードルが高い。

【福澤真理子議員】

女性議員の参画を考えると、個人としては反対。フルタイムで就業していたこともあり、夜間・休日であれば、仕事への影響は軽減されると思った。実際一年近くやってみて、仕事・議員・家庭と、役割をもち、続けることは困難があると思った。職場では仕事量を配慮してくれたり、同僚のカバーによって続けられた。雇用契約で働く場合、雇用形態、仕事の内容などによっては、兼業を妨げるものではないが、専念できることが望ましいと思う。

導入の際は、村民は反対される方が多かったように感じる。議会の総括をした上で、村民の意見を聴くことが必要と思う。

【櫻井登議員】

健康上の不具合もない。年齢制限にて停まることはあるが、それまでは「両立可能＝勤務進行中」

【兼業でない議員（家族）の意見】

【下岡幸文議長】

家庭の事情で、休日議会はほとんど問題ないが、夜間議会は年間の日数は少なくとも他の会合と重なり調整が大変なことがある。

【小池豊副議長】

副議長なので当然のことと思いますが、忙しそうに見受けます。

【後藤澄壽議員】

夜間議会は親介護をしているので、昼の介護を手伝ってもらえる点は評価できる。しかし、休日議会は、介護が手伝ってもらえないことがあり不便である。

【東原靖雄議員】

休日議会は土、日曜日でも農産物の出荷が有るため忙しく感じる、やりくりして、また雇用して間に合わせている、夜間議会は夕飯を早めに作っている、夜遅くなく帰って来るため心配はない。

【木下温司議員】

特に問題はない。

【昼神二三男議員】

賛成 時には疲れた様相が見受けられるが、本人の気持ち次第

【兼業でない議員（後援者）の意見】

【下岡幸文議長】

多くの後援会の皆さんが賛成の表明をしていただいた。

【後藤澄壽議員】

議員は自治会の役員を兼務することになっているが、自治会の夜間の会議、休日の共同作業に参加してもらえないことがあるのは問題点である。

【東原靖雄議員】

村議員は区会議員の1人のため毎月の区会には、議会報告を行い、村の流れが理解され、又区民の要望を取り入られる。

【木下温司議員】

特に問題はない。

【昼神二三男議員】

賛成。兼業議員の負担軽減については、即答えが得られるが、なり手不足解消への効果は、次の選挙の結果を待つのみ

【兼業でない議員（本人）の意見】

【下岡幸文議長】

個人的には平日でも休日でも昼間でも夜間でも問題ない。でも、これからの村政にはいろいろな年代の男性や女性（特に若い年代）の意見が必要と考える。議員の方が活動し易い議会運営が必要であり、その時の状況に合わせて夜間・休日を組み合わせた議会にして行けばよいと考える。

【小池副議長】

勤めがないので、特にこだわらないが、勤めのある兼業議員の意見を尊重してほしい。

【後藤澄壽議員】

上記のように、自治会の夜の会議、休日の共同作業に参加できなかったことがあったのは問題点であった。

【東原靖雄議員】

賛成の立場から平日議会が少なく仕事が出来、夜間議会も深夜まで続くことなく、時間制限で早めに帰宅出来て良い。

【木下温司議員】

現段階では、議員活動においても充実して専念できる。地域の方の意見集約や、他自治体の傍聴、調査研究など時間的には余裕を持って活動できる。

【昼神二三男議員】

賛成。特に、夜間議会は時間的に節度をもった議会運営がなされている。

8. 全国町村議長会の議長アンケートでは「休日・夜間議会の取り組みは議員のなり手不足解消に繋がらない」が大方の意見であり、喬木村議会も同様に考えていますが、なり手不足解消に向けて議員として後継者育成含めどのような取り組みが必要か記入下さい。また、取り組んでいる事例があれば併せて記入願います。

【下岡幸文議長】

- ①いろいろな環境の議員が議員活動し易い環境づくり（実施）
- ②新人議員が議会活動に取り組みやすくするための相談・アドバイス（実施）
- ③若い世代が議員活動を理解できるように報告会や意見交換会の実施（実施）
- ④将来議員になりそうな人への働きかけ（実施）
- ⑤選挙制度の検討（中小選挙区制の導入、連記制の検討など）

【小池副議長】

なり手不足は、議会の執行方法からではないと思います。世間からの注目度、批判の目等プレッシャーも影響しています。後継者は後援会組織を通じて、現職のうちからの対応が必要かと思います。

【下平貢議員】

「休日・夜間議会の取り組みは議員のなり手不足解消に繋がらない」という考えは、私も同感である。

休日・夜間はあくまで働き方改革の一つであると捉えている。働き方改革以前に、議会の本質を理解し魅力を感じてもらい、喬木村の行政への関心を高めてもらうことが第一歩だと感じる。行政への声が届き、村づくりへの関わりが持てることへの魅力を感じてもらえることが大切ではないかと思う。その為には、今取り組み始めた、政策サイクルの実現と、議会力の向上が急務である。加えて、発信力強化と、民意の吸収力の向上が大切だと捉えている。

【後藤澄壽議員】

日常的に地域を回り、多くの住民と「後継者の問題」も含めて話し合いをし、「この村をどういう村にしていきたいか」という共通意識を形成していく中で、後継者になってもらえる人を見出していきたい。

【東原靖雄議員】

なり手不足につながらないと思います。現行選挙方法では、山間地での人口減少が進む中では益々、なり手不足になりかねないので、地区の行政合併し選挙区を広げてはどうか。議会モニターを中心に考えていきたいが具体的には進んでない。

【後藤章人議員】

「夜間休日議会はなり手不足解消に繋がらない」という意見があるようだが、夜間議会はなり手不足解消の一つの案として実施してきている。

これがどのような結果に繋がるか分からないがこの取り組みが、唯一無二の物とは思っていない。もちろん特効薬でもない。しかし、続けていく事によって住民の皆さんの理解を深められると良いと思う。住民の皆さんとのコミュニケーションが重要と考えるが、なかなか難しいものだ。

【佐藤文彦議員】

なり手不足は現実であり、特に若い世代では自分の生活に目一杯で、村政はおろか選挙にすら興味がない方が多い。いきなり後継者ではなく、先ずはそれぞれの議員が、議員の責任として住民に興味・関心を持っていただけるような活動をしなければいけないと感じる。将来的には地域選挙の形も崩れると予想するなか、住民の中に意識の高い人を育てられるかが課題。

毎月1回、後援会幹事会（6名程度）を行い、議会報告を行うことで、村政の課題や状況について報告し、また逆に住民の皆さんからの要望や提案を聞き取っている。その中で自分が答えられる事はその場で答え、村に質問すべき内容はそれぞれ常任委員会や一般質問に振り分け村に届けている。その結果を報告することで、住民の皆さんの意見が村に届いていることを実感してもらっている。不定期ですが未来塾（年3回）を開催し、元村長、現村長の講話や国会議員の先生との懇談会を行いながら、政治や議会に興味・関心を持って頂ける機会を作っている。

【中森高茂議員】

若い世代の人が、休日を犠牲に地域のために働く事を選択する事があるか考えると不安が大きいですが、地域での消防団加入者や多くの活動に参加している方々に目を向け自分の思いを伝えていきたい。

【福澤真理子議員】

正直言って、自分がこの立場に立つことは思っていなかった。一年と少し経ち、動きが見えてきたというところで、とても後継者育成というまでいかない現状である。関心をもち、問題意識をもっている人もいる。

こんな私でもやれるというところを見せられるようにしていかないといけないと思っている。議員になることだけでなく、多くの方に村政や議会への関心を高めてもらえるようにすることが必要で働き掛けをしていきたい。まだ自分からの取組はできていない。

【木下温司議員】

後継者育成については、常に念頭に置き接触しているが、地域の特性、勤務の関係など難しい点も多く。また、選挙費用など新人として出るためには経費の問題もあり、進展はない。

【櫻井登議員】

「議員」とは、一般的に好まれるような「職業」ではないと思われているから、やり手もない。必然的に「低関心」になってしまう。1期生議員として、まだ「後継者育成」どころではない。自身が、勉強中の身であり「時間的、精神的に余裕が出てくるのはこれから」のこと。やはり、専門議員として「専従」できる「環境や報酬」が整っていなければ、職業として真剣に考えることも、或いは、意欲的に取り組むことも少ないと思われるが、積極的な方を発掘するしかないと考える。しかし、住民の「低関心から関心を持ってくれることも、考えられなくもないが、議員としての使命感や、その圧迫など、跳ね返す気力ある性格も要求さ

れるし、その資質も問われることになる。「議員職が職業」として魅力がなければ、手を挙げる方はいないのが現実。

「なり手不足解消」問題は、当分未解決のままと思われる。議員が、議員職として成り立つ議会に、住民の理解や関心を高める議員一人ひとりの努力が必要。

【昼神二三男議員】

後援会員の中から後継者を擁立するよう話し合い

9. 今後の議会運営における改善点がありましたら記入願います。

【下岡幸文議長】

- ①全員協議会と議員全員協議会の一本化
- ②村主催の各委員会等への議会代表の必要性の検討、代表議員の選任
- ③議案を始めとする会議資料のペーパーレス化

【下平貢議員】

チーム議会という捉え方からすると、議員間において充て職による負担格差が生じていると考える。役割分担できるところはそれぞれが分担し責務を果たすことも大切ではと感じます。

【後藤澄壽議員】

多様な意見が反映できる議会にしていきたい。

【東原靖雄議員】

今後の議会改革に ICT 議会、通年議会が有り、このことをやり上げることが大事で、これ以上改善点は望みません、ただ今までしてきたことの中で改善点は、他町村議会の視察の対応に於いて全議員が出席しなくても良いで有れば視察受入を減らしても良いと思います。

【後藤章人議員】

議会は議員全員で運営していくべきもの。現在は、委員長に仕事が集中し、それ以外の委員があまり参加していないように思われる。これは是正しなければならない。

本議会はあらゆる方面から注目されている。それによって視察申し込みも増えている。視察に来られる議会についても勉強をしておかないとならないと思うが、あまり多いとそれもおろそかになる。したがって受入数についてのルール決めが必要かと思う。また、「夜間休日議会」という観点から視察受け入れを夜間にしてもいいのではないかと。

議会としては、当たり前前を当たり前前に進めていく事が大切。しかし当たり前前を全うするのは大変難しい。現在の我々にとって当たり前前とは夜間議会を継続して2時間の内にいかに深い話し合いをするかという事だ。議会の課題はいくらでもあるが、矢継ぎ早にそれらをクリアしていこうとすれば無理が生じる。一つ一つクリアすれば良い。

議会改革は、早急に進めたいものであるが、慌てる必要はない。「改革はずっと続く。改革には終わりはない」そんな気持ちで進めたい。

【佐藤文彦議員】

議員間で仕事量が違うのではないかと感じる。議長、各委員長の仕事量は想像以上だと思う。また、その他議員間でも差があるのではと感じる。議長任せ、委員長任せというような事があると議員の資質向上にも繋がらない。

議員一人一人が議会運営の責任を果たせるような配分をするべき。それぞれ立場もあり、その役割も明確であるべきだとは思いますが、協議の進行を当番制にするなど、各議員のスキルアップや責任感に繋がるような方策を検討したらどうか。議員全員協議会については、十分な協議が必要な案件も多く、その為には事前の準備も必要です。協議内容が事前に分かるよう徹底して頂きたい。また、進行についても協議の趣旨が分からない事が未だにある。以前から指摘させて頂いているが、その後、事前の打合せ等の改善がされているのか疑問に感じる。

【福澤真理子議員】

心底謙虚であること。尊重しあうこと。意見は様々あってしかるべき。

【木下温司議員】

行事日程等各部署の把握の徹底。村民参加の行事との重複を避ける。議会各事業における、まとめ報告については相手のことも考えできるだけ速やかな報告に心掛ける。作業の効率化。

【櫻井登議員】

何事も「村民益を最優先」に照らし、考えること。住民の声を素直に聞き入れること。説得の程度にもよるが、降圧的な姿勢は反感を買う。

「相手」があることを意識した解釈（斟酌）も必要。議員の「発言の機会」（反論）が与えられるべき。これは常ではないが、ある「提案申し入れ」に関し、「回答文書」を出状するとしつつ「全員協議会」において「口頭により回答」がなされたことは「提案申し入れ者」に対し、同様に「発言の機会を設けるべき」であり、「口頭での回答」により、そ

の場を終結されたことに「片手落ち」として憤りを感じる。また、この回答とは回答書面も出されたが、「申し入れ」に対して「否」を表明されたものである以上、「否」、その旨を伝えることのみでよく、内容につき、逐一、論述することは通常、あり得ないこと。「論拠は無用」である。「回答書」の体裁を整えられるべきと考える。「機会の公平」と「文書作成の体裁」に注文を付し改善を願いたい。

10. 地方議会の在り方に関する研究会報告書においても「定数」「報酬」についても取り上げられています。現時点における以下の項目について議員の考えを記入下さい。

【議員定数についての意見】

【下岡幸文議長】

多様な年代・立場の住民が議員となり村政に参画するには、現状の定数が必要と思う。また、議会として機能発揮するためには最低10人は必要と思う。ただ村民からは多様な意見がでてこない現状では12名の定数は多いという意見もある。

【小池豊副議長】

集中専門型にし、専門的な研修、学習が必要ではないか。中途半端な対応では執行側に対しても失礼かと。

【下平貢議員】

委員会の編成、多様な意見の取り入れ、採決などの理由から現定員が妥当と考える。

【後藤澄壽議員】

現状が妥当と思われる。

【東原靖雄議員】

村の人口割に考えても、常任委員会の構成に於いても現行定数の12名で妥当と思います。

【後藤章人議員】

現在の12名が妥当かと思う。これ以上増やして無駄な人件費を払う必要もないし、12名より減らせば広く住民の皆さんの思いを受け止める事が難しくなり、委員会構成・運営が困難になる。また、議案審議がおろそかになる事が懸念される。

【佐藤文彦議員】

議会は住民の代表機関であるから、当然喬木村の人口を考慮する必要がある。そこから多様な民意を反映するためには何人必要なのか？多元的な意思を統合し喬木村の意思を決定するのに相応しい規模は？それらを踏まえて喬木村議会の機能や仕事などを含めた根拠を出す必要がある。

そこから検討されるべき。現状の兼業議員での体制、また常任委員会の構成など、喬木村議会として責任を果たすには、現時点では現在の12名は妥当であると考えている。

【中森高茂議員】

10人が委員会構成等考えると最低定員と思われる。すべての委員会に所属すれば8人でも可能である。

【福澤真理子議員】

少なからず多からず。委員会を運営できる人数の確保は必要。

【木下温司議員】

前回の在り方に関する研究報告書でもお示ししましたが、議員定数と報酬を一緒に考える向きもあるが、この問題は全く違う次元の問題です。

地方自治法の改正によって定数枠が取り払われ、大きな議論もなく定数削減が図られてきた。現在喬木村は12名。2つの常任委員会から見れば6名。委員長除く5名での審議を考えると、あまり少ない議員では白熱した議論ができない可能性がある。

委員会も関連して、他の委員も兼ねており、総務産建では農業委員会、消防委員会など、社会文教では教育委員会、国保関連など、委員会参加も多い。現段階では適正と考える。

【櫻井登議員】

常任委員会を兼務しない範囲に、最低限の議員数の確保は必要。少数意見では偏る懸念があり討論も弱くなる。また、多数では、意見集約に支障をきたす恐れも考えられる。現状維持が良い。但し、女性議員の割合がもっと高くなる議会構成が望ましい。

【昼神二三男議員】

現状の定数は必要 地域の声が聞こえなくなる

【議員報酬についての意見】

【下岡幸文議長】

村民の皆さんの意見で多いのが、今の報酬では少ないと思える活動をしている議員と今の報酬でも多いとしかと見えない活動しかしていない議員がいるという意見。その評価が変わらなければ報酬の増額は難しい。

現状の議員の活動を見てもらう、理解してもらう、評価してもらうことが大事と思う。

【小池豊副議長】

「報酬が少ない」と言ってくれる人はいるが、行動にまではいかない。改善するには議員自身の行動が必要。喬木村として生き残っていくには、議員定数を減らしても、報酬は上げるのが必要かと思います。

【下平貢議員】

住民の議会に対する理解度が高まってこないことには、議員の仕事が理解されていないと判断せざるを得ない。現時点では、報酬を論ずる段階に至っていないと感じる。議員力の向上と、議会力の向上が先ずは大切ではないかと感じる。

【後藤澄壽議員】

現状が妥当。

【東原靖雄議員】

現在の議員活動を考えると、少額な感じはするが、今引き上げるのではなく現在の活動を継続し、議会報告会で村民の一層の理解を得ることが必要で有る。しかし、報告会に参加人数がまだまだ少ない感じがするので、参加人数を増やす検討をすべきと考える。

【後藤章人議員】

住民の方々から報酬アップの声はよく聞くが、いわゆる働く議員と働かない議員との差が多くあり、住民の理解を得て報酬を上げることには無理を感じる。議員全員が住民から仕事の面で認められるよう努力の後の話だと思う。

【佐藤文彦議員】

議会の役割、議員としての仕事が住民の方々に理解されていないうちは、報酬の議論はできないと感じる。ただ、議会の見える化に努めたとしても、目には見えない活動はある。どこまでやったから報酬を上げる

とか、ここまでしか出来ていないから上げられないと言う住民目線での線引きも難しいのではと感じる。いずれにしても報酬についても根拠が必要になると考える。単純にプラスマイナスで考えると、議員報酬のプラス分と自分の仕事での報酬のマイナス分を計算すると、現在の議員報酬は決して高くない。

【中森高茂議員】

報酬を上げる事が定年前や子育て世代の参画を可能とするが、議員報酬が少なくても兼業議員として雇用企業の理解を得られ社会保険に加入できれば議員年金の問題も再燃しない。

【福澤真理子議員】

なり手不足が経済的な問題であることが明確になれば、報酬を上げることも、村民に諮ればいい。

【木下温司議員】

報酬については、中々結論の出る問題ではないが、今後議員を目指す方にとっては十分な報酬とは思わない。ただ、飯田下伊那の議員報酬は全国的にも下位の方で、一気にアップすることは不可能と考える。

町村議員には公費によるビラの作成も認められておらず。現段階では政務活動費的な経費、調査費に関する経費、議員活動に関する資料代、交際費など出費も多く大変と思う。住民の皆さんの理解を得ながら、徐々に上げていく検討が必要と思う。

【櫻井登議員】

「報酬」は「給与」ではないので「生活できる額」を望むまではないが別途、「政務活動費」「費用弁償」は「目的と用途を明確」にして「必要」と考える。現在、相当する出費は、持ち出しということでやっている。（個人の議会報告等、印刷代）

【昼神二三男議員】

議論するにも根拠に乏しい。住民に、根拠を示す必要がある。

【政務活動費についての意見】

【下岡幸文議長】

議員活動する上で、議員全員が共通的に支出する費用、例えば参考図書購入、全員が参加する調査・研究費用、今後導入を検討するタブレットの購入費やランニングコストなどは政務活動費とすべきと考える。

【小池豊副議長】

図書費、研修に関する実費の請求は、していきたいし、費用として認めていただきたい。

【下平貢議員】

私個人は、議員として、政務活動費を使いこなすまでに資質が至っていないと思う。自己研鑽がまだまだである。ただし、議会であったり、委員会としては、調査研究に対し、一定の政務活動費はあっても良いと感じる。

【後藤澄壽議員】

村民の理解が得られないと思うので不要。

【東原靖雄議員】

現在の多様化した活動の中での、政策の研究、調査での費用であり、当然支払って良いと思う。各自治体の条例で決め、領収書の添付はしない自治体もあるがこれ等も添付すべきである。

【後藤章人議員】

必要な経費はあって当然だと思います。

【佐藤文彦議員】

議員報酬と合わせて検討すべき。各議員の調査、研究による政策立案の為にも必要性を感じる。議員のスキルアップに繋がる各種研修会についても遠方で高額。議員報酬での対応では負担も大きいため、全額とは言わなくとも、多少の補助的な額や割合で検討されても良いのではと感じる。今後の高速交通網の進展により、各種団体との折衝も増える事が予想される。議会としても責任を果たせるよう、議会の交際費についても併せて検討が必要であると感じる。

【福澤真理子議員】

村民に理解の得られる形で、認めるのがよい。（どう活かされたか評価が得られる内容で）理解が得られるか、難しい。

【木下温司】

必要と思うが、ルール作りなど今後検討が必要。

【櫻井登議員】

積極的な取り組みや活動には「経費」が掛かるものであり「正当な政務活動費」は認めて「支給対象とするもの」が望ましい。領収書の添付は必須。予算額を設定し、範囲内での正当な活動費をぜひ検討望みたい。

【昼神二三男議員】

現状の活動状況では、特に必要としない。

【会議出席日当・旅費等（費用弁償）についての意見】

【下岡幸文議長】

ある議員が議会代表として各種会議へ出席する場合は費用弁償すべきと考える。しかし、その前段として会議への議員参加の可否と議員の業務の平準化の検討を優先すべきと思う。

【下平貢議員】

一定のルールの中で、費用弁償はあっても良いと考える。

【後藤澄壽議員】

「領収書」の添付など条件をつけて認めたらどうか。

【東原靖雄議員】

他町村議会との視察対応は、費用弁償をしても良いと思う。

【後藤章人議員】

あっても良いと思います。

【佐藤文彦議員】

費用弁償についても議員報酬・政務活動費と合わせて検討するべき。特に議長など対外的な活動をされている方については配慮されるべき。

【福澤真理子議員】

明確であれば認めるのがよい。領収書は当然。

【木下温司議員】

今後は必要と考えるが、議員報酬の理解が得られない中では、政務活動費、費用弁償など細かな経費出費と合わせ、審議会等を通じ住民への理解を頂かないと、報酬審議の中であれもこれも出しているのに、「報酬を上げろとは」と言う意見も出てくるのでは。慎重に進めることが重

要。

【櫻井登議員】

「実費弁償」など1件、1件の個別対応とし、明確なるものは支払いの対象とすることがよい。領収書の添付は必須。

【昼神二三男議員】

議員の職務を行うのに要する経費であるため必要

11. 議会改革・議会運営上ICTの活用が効果的であることから

タブレット端末を活用した運用を検討することになりました。省資源化・データ共有と送受信・本会議における活用・災害時における活用が検討されています。（導入にあたり多くの議会では住民に配慮して議員は一定の負担をしています。）以下の項目についてご意見を記入下さい。

○議案に対する事前の意見集約の可否について

【下岡幸文議長】

議案を理解し、自分の考えをまとめるためにも事前の意見集約は参考になる。タブレット導入の際にはペーパーレスとし、データでの活用を考えるべきと思う。

【下平貢議員】

このことがあることによって、事前の議案の読み込み、調査研究が出来る。仕組みとして良策であった。

【後藤澄壽議員】

事前に他の議員の意見を知っておくことは、自分の意見をまとめる上で有効であった。ただし、必ずしも「賛否」まで、明らかにする必要はないと思う。

【東原靖雄議員】

事前に資料の配布により議案の内容を検討、調査が出来、より深く掘り下げること、審議が真剣に行われる。議案の多様化により多くの資料が必要とされている、タブレットの使用は、現在のICTの活用に必用と考える。

【後藤章人議員】

事前の意見集約は必要だと思う。

【佐藤文彦議員】

本会議、委員会質疑において、濃密で活発なものにしていく為にも、今後も必要と考える。賛否については、全てにおいて必要かの検討はするべき。

【福澤眞理子議員】

自分では気が付かないこともあり、参考になり、良い。賛否は判断できないことも多かった。思考の過程、論議の過程であり、あくまでも参考に。

【木下温司議員】

必要と考える。事前に議員の考えが掌握でき、審議について進行がしやすい。

【櫻井登議員】

「議員間の意識の相違、解釈の相違が参考」となることが多く、役立っている。このことは、「情報共有にもなり、限られた時間のなかでは、効率的で良いと感じている。但し、現状の範囲程度が望ましい。あくまでも、参考程度として考える範囲に留めること。

「議員の一定負担」とは、「タブレット使用」の公私混同を想定してのことなのか、分りかねるが、議会以外に何の目的使用があるのか具体的に示されないと判断できない。「公務使用に限定」であれば、住民への配慮は特に必要ないと思う。現在、プリントは自己負担でしかなく、インク代は高額であり、「議員の一定負担」を検討するには、双方の負担のバランスも考えなければならないことに発展もする。

【昼神二三男議員】

予算・決算審議においては、時間的に余裕ある議案配布がないとボリューム的に、十分な事前検討は難しい。

○簡易な質問に対する事前の意見集約の可否について

【下岡幸文議長】

事前の簡易な質問についてもデータでのやりとりによる全議員の情報共有が必要と思う。

【小池豊副議長】

事前の質問は、村としての対応が良く理解できる。

【下平貢議員】

自分でも見いだせなかった質疑を、チーム力によって情報が共有でき、審議を深めることが出来た。今後も続けることが良いと思う。

【後藤澄壽議員】

事前に回答をしてもらってよかった。さらに問題点を深めた質疑をしていく上で役立った。今後も継続してもらいたい。

【東原靖雄議員】

事前に学習はしているが、なれない用語等に理解出来ない部分も有りの事前の意見集約は行って良い。

【後藤章人議員】

簡易な質問に対するものは、あれば良いが無くてよい。事前の意見集約の活用をうまくやりたい。

【佐藤文彦議員】

数字や言葉、行政用語の質問などは多少なりとも発生すると思います。それらを含め簡易な質問により、議員間での共有を図るためにも必要と考える。「簡易な質問」の定義に議員間で違いはあるが、その統一は難しい。その質問を踏まえて更にその先の質問へと繋げることが重要と考える。

【福澤真理子議員】

時間の有効活用につながると思うのでよい。

【木下温司議員】

必要と考えるが、議員の活用がまちまちで、簡易な質問はデータ等の提出、回答に留めておくことが望ましい。質問・回答を受けたら、委員会内では発言を再度行う。

【櫻井登議員】

活用できる。歓迎。今後も継続を望む。

【昼神二三男議員】

事前質問によりその回答が共有化でき、本番での時間配分に有効である。

○「事務事業評価シート」を活用した決算審議の可否について

【下岡幸文議長】

事務事業評価を活用した決算審議は今後も続けるべきと思う。有効性を検証する事業の選択や議員が独自に評価する事業の選択、審議の結果次年度の予算編成に結びつける提言の検討等この審議方法は可能性が広い。この方法を習熟していくことが必要と思う。

【小池豊副議長】

費用のみの決算審議でなく、事業の成果、課題を確認しながらの審議ができて良い。業務の内容もよく理解出来る。

【下平貢議員】

数字の検証に終わらず、事業の検証に繋がられたことは進歩であった。

【後藤澄壽議員】

「成果」「課題」「今後の方針」などが明確に把握でよかった。今後も継続してもらいたい。

【東原靖雄議員】

今までの分かりやすい予算書、決算書では単年度の内容がわかるのみで流れがわからない、事業評価シートになれば、事業が数年にわたって内容がわかり、全体の流れ、内容も深く理解できるので今後も事業評価シートを使用することを願う。

【後藤章人議員】

大変良かった。以後もこの方法でいきたい。

【佐藤文彦議員】

今後も活用していくべき。今回初めての試みであったが、前回の決算よりは遥かに事業の内容や方向性などが理解でき、予算に反映されるような提言も出された事は議会として一步前進であった。更に深く予算効果と行政効果に着目し、客観的に判断し、その結果を踏まえ、予算審議や今後の財政運営の判断に役立てるべきと考える。

【福澤眞理子議員】

昨年ほどこの説明を受けているのか、ついていけないところもあった。評価や課題が見えるのがよい。

【木下温司議員】

平成 30 年度 9 月議会決算認定には、今回初めて事務事業評価シートを活用し、事業の進捗状況、予算の執行状況を審査したが、初めてのこともあり、十分活用しきれていない部分も見受けられた。充分とは言えないかもしれないが、調査研究の為日程もいつもより多くとって、内容の確認をお願いしたが、幅広い視点での論議に欠けたと感じる。

【櫻井登議員】

従前よりも評価シートの方が「質問点」を引き出し易い。総ページは分厚くなるが、こちらの方が取り組み易い。継続を望む。評価シートの「評価」A・B・C は粗い。4～5段階の「評価」があつていいと思う

【昼神二三男議員】

「わかりやすい決算書」による審議より数段高いレベルでの審査ができたものと評価する。「事務事業評価シート」の活用で十分である。

○定例会総括の事前の意見集約の可否について

【下岡幸文議長】

内容の濃い充実した定例会にするためには総括と改善策が必要と思う。総括については項目を固定化し、開会中から意見記入が出来るようにして欲しい。閉会してから書き込むことは記入忘れや提案が出ないこともある。また、事前に個人の総括をあらかじめ集約することは効率的な会議運営には必要不可欠と思う。

【下平貢議員】

個々の考えを事前に知ることが出来ることと、諸策に対する意見が書面として残ることにより、発言にたいし責任も高まることから良策であった。以上のことから、今後も同様なやり方で行うことが望ましいが、書類も膨大となることと、過去の資料が即座に引き出せる利点からすると、タブレット端末を利用した運用には賛成である。利用にあたっては、より使いやすさを重視頂きたい。

【後藤澄壽議員】

事前に問題点を考えることができる。継続に賛成。

【東原靖雄議員】

議会改革を進めるにも、反省し、より良い議会を、多くの村民にわかりやすく理解していただくためにも意見集約は必要です。

【後藤章人議員】

これも必要である。今後上手に活用していきたい。

【佐藤文彦議員】

総括の事前の意見集約は、各議員の意見を把握するというより、前もって自分自身の反省をするという意味が大きい。本来であれば議員が自主的に総括を行うことが望ましいとは思いますが、現状では難しい。総括がなければ、次の改善にも繋がらない。議会改革を進める上では必要な作業で、今後も続けるべきと考える。

【福澤真理子議員】

予め考えることができ、論議が効率的に進められるのでよい。

【木下温司議員】

必要と感じる。常に議会終了後の新鮮な感覚のうちに意見を集約しておくことが次のステップにつながる。

【櫻井登議員】

「問題整理、時短効率、明瞭手法」と考えられる。継続を望む。

【昼神二三男議員】

他の議員が感じた内容、考えが把握できて有効である。